

# 緑の地球 GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力

- 黄土高原からのたより ..... P4  
●チコロナイ・ひろがる輪 ..... P7



広霊県平城郷の子どもたち。果樹園づくりの作業のあいまに

1995・6

37

## 緑化基金にご協力ください

緑の地球ネットワークが黄土高原ではじめた緑化協力も4年目をむかえ、たくさんの会員、会報購読者の賛同や、郵政省国際ボランティア貯金や環境事業団の地球環境基金をはじめとする助成をえて、当初の予想をはるかにこえたペースですんでいます。それにつれて問題点もでてきて、より専門的・技術的なサポートが求められています。今春から立花吉茂先生を代表にむかえて、それらの問題を協力して少しずつ解決していくべく態勢をととのえてきました。

運動をはじめのよりも、継続するほうがたいへんだとはよく言われるところです。発展させていくならなおのこ

と。大同では緑化協力の基地ともいえる地球環境林センターの建設もはじまり、いよいよの協力が必要となってきました。

というわけで、1995年度の緑化基金の目標を、1994年度実績の約2倍の300万円に設定しました。それでも、「助成金の半分ぐらいは自力で集められないとね」と言われた額には遠く及ばないのですが。阪神・淡路大震災のあとで、みなさんたいへんなことと存じますが、ご協力をお願いいたします。※発送作業の簡便化のため、振替用紙を一律で同封いたします。最近ご協力いただいた方には、重ねてのお願いではありませんのでご容赦ください。

## 夏の黄土高原 ワーキングツアー

いつかワーキングツアーに参加しよう、と思っている方には、今夏をおすすめします。なぜって、回をかさねるにつれ、「ここが面白そうだ」というところが次々とでてきて、そういう場所がたくさん予定に入っているんです。とはいえ、作夏は2班出せたツアーも、今年は1班しか出せません。早めにお申込みください。

夏は植樹に適さないので、正直いつて木は植えられません。そのかわり、早朝から夜まで1日をフルに使って果樹園の中耕、整地などの作業や、村人との交流、星空の観察を楽しみ、アワ、ジャガイモ、ヒマワリ、菜の花などの畑のパッチワークが見られるのは夏ならでは。

長城の村や、自然保護区も訪問の予定です。立花吉茂団長による黄土高原の植物のお話も楽しみです。

●日程 7月25日(火)～8月4日(金)

※関西新空港発着

●費用 22万円、学生20万円(航空運賃、中国での宿泊費/食費/交通費、ビザ取得手数料、GENの会費1年分を含む)

●定員 20人(先着順)

※航空便のつごうで、日程・費用とも変更になるばあいがあります。

■お問い合わせはGEN事務所まで。

TEL.06-583-1719 FAX.06-583-1739

.....  
の中で「自然のまま」を保つのは言葉で言うほど簡単ではないことが実感されます。

阪神大震災は、私たちが生きた星「地球」の上で生活していることを否が応にも示していきました。その中で、人工のもので固めた要塞のような都市を築くことのみではなく、その場所に元からある自然とどう付き合い、人間の生活をどう調和させていくのかという大きな課題に、改めて気づかされたように思います。言葉で言うのは簡単だけど、じゃあ、どうするの? 六甲山の木々がそう問いかけてきているような気がしました。(嶋田光雄)

## 自然と人間のかかわり合い方とは...

### ～震災後の六甲山を歩いて～

「山は自然のままがいいと言うけど、藪にしておくわけにもいかないし、自然と人間とのかかわり合いはとても難しいんですよ」。そうおっしゃる和田邦孝さんを講師にむかえ、久しぶりの自然と親しむ会は六甲山を訪れました。今回はロックガーデンから東お多福山を経る10km程のコースを散策。26名の参加者と一緒に、初夏をむかえ緑のまぶしい六甲山の自然を満喫しました。

道沿いのツツジは少し時期が過ぎてしまっていました。ピンクの花を付けた「モチツツジ」やオレンジ色の「ヤマツツジ」、柏餅の葉に使う「サン

キライ」、葉っぱが良いにおいの「クロモジ」.....。植物に疎い私の頭が、はち切れそうなほどでてくる植物の名前や由来の話。「う～ん、六甲山は深い...」ただただ感心するばかりです(そのわりにあまり憶えられないのが何とも歯がゆいのですが.....)。

和田さんの話によると、この緑豊かな現在の六甲山でさえ、人間が植林しないと森が再生しない地域があるそうです。また、散策コースとしてみんなに親んでもらうためにはどうしても若干の手入れは不可欠になるそうです。単に「自然」と言っても人間とのかかわり合いを考えると、ただ放っておくわけにもいかないさまざまな問題があり、悩みの種は尽きそうにありません。

今回の散策コース沿いにも、岩肌が崩れていたり、尾根筋に地割れが入っている所が数カ所見られました。先の地震の影響は六甲山の中にも深い爪痕を残しています。二次災害を防ぐためにもこれらの補修は急がれますし、人間社会



震災後のはじめての六甲という人が多かった(5月28日)



## レターセットづくりに 参加しませんか

「このデザインおしゃれ」まっすぐ切れない！にぎやかなレターセットづくり



興味と時間のある方はぜひご参加ください。“私だけのデザイン”を楽しみたい方は、レターヘッドのデザイン（便箋のサイズは14×20cm程度）をお持ちいただいてもけっこうです。その場合、プリントゴッコのハイメ

ッシュマスター（B6サイズ）、ご希望の色のハイメッシュインクもご持参いただくと助かります。



5月27日、GEN事務所にて“レターセットづくり”がおこなわれました。「オフィスで毎日山のようにでるOA用紙の廃紙がもったいない！白紙の部分だけでも使いみちがないかしら」と悶々としていた祖谷世話人のアイデアです。切り口が波形になるハサミで紙のふちをカットして便箋や封筒をつくり、プリントゴッコですずしげな観葉植物の絵をプリントしてできあがり。思っていたより手間がかかってたくさんはできなかったけれど、なかなか楽しいし、方法を覚えて帰れば自宅でも簡単にできます。

次回は7月1日（土）午後1時からGEN事務所（JR環状線・地下鉄中央線「弁天町」駅）でおこないますので、

## 使用済みテレホンカード、オレンジカード回収 ひきつづきご協力をお願いします

学校や職場ぐるみで、また、友だちに呼びかけて、あるいはこつこつひとりで集めて、などなどたくさんのかたがたにご協力いただいている使用済み磁気カードが集まりましたので、先日換金してきました。全部で7,507枚あり、75,070円になりました。

前は地下鉄や私鉄のプリペイドカードも1枚5円で買い取ってもらえたのですが、今後は苗木代になるのはテレホンカードとJRのオレンジカードだけになります。それ以外（ハイウェイカード、ラガールカードなど）は、古切

手と同じように『希望工程』（就学困難児童のための支援プロジェクト）協力者への記念品として大同で利用させていただきますので、ご了承ください。また、記念品用なので、現地でよろこばれそうな絵柄のきれいなものを送ってください。

## ビデオ 『黄土高原に緑を！』

何かを具体的に知ろうと思うなら、文字よりも写真、写真よりも映像。想像力のはたらく余地がなくなってしまうって？ご心配なく、黄土高原の現実には私たちの想像をはるかにこえていますから。どんなぐあいにこえているかということ、それはビデオを見てから現地に行けば、よくわかります。

環境教育教材として図書館、学校などでのご利用をお願いします。

### 黄土高原に緑を！

ビデオ作品・28分・カラー  
定価 5,000円 会員価格 3,500円  
郵送料 390円  
環境庁・環境事業団 地球環境基金  
制作協力／文部省選定／大阪府・京都府・大阪市教育委員会推薦／中華人民共和国駐日本大使館推薦／（財）大阪国際平和センター推薦

## 自然と親しむ会 立花先生と春日山を歩く

今回の“自然と親しむ会”は、奈良を訪ねます。昔から奈良の人びとに親しまれてきた若草山、春日山を、立花先生に案内していただきます。梅雨時でお天気が心配ですが、小雨決行です。

- 日時：6月25日（日）10時～
- 集合：近鉄奈良駅東出口噴水前 10時集合（解散予定16時ごろ）
- 参加費：大人500円、小人（中学生以下）300円（保険料含む。奈良までの交通費は含みません）
- 持ち物：弁当、水筒。靴は運動

靴、トレッキングシューズなど、歩きやすいものを。雨の場合は、レインコートなどでぬれない工夫を。

- 定員：30人（先着順）
- 案内：立花吉茂さん（GEN代表、花園大学教授、咲くやこの花館技術顧問）
- 小雨決行：当日のお問い合わせは、7時30分までに高見（0797-88-1350）まで。
- 申込み：6月21日（水）までに、GEN事務所まで。

# 陝北の村から... その1

深尾 葉子 (大阪外国語大学講師・GEN世話人)



前回、香港から風水木の保護にまつわるお話を報告させていただきましたが、その後日本に約1年滞在の後、現在はGENの活動拠点である山西省の西隣、陝西省北部の農村に調査のために滞在しているので、今日はそのご報告をさせていただきます。ここはかねてより訪れていた村で、GENの会合でも何度かご紹介している地域ですので、お馴染みの方も少なくないかもしれません。

陝北地域は、山西省と同じく主として黄土高原にあり、窯洞建築を主とする農家が黄土高原の食谷に点在しています。降水量はやはり年間400mm前後で、北の長城線を境に沙漠と草原が交差する地域でもあります。ただ、沙漠

の点在する榆林地区では灌漑農業や羊毛加工業などで比較的豊かな地域が多く、灌漑による水田で米の生産もできるほど恵まれた環境であるのに対し、米脂県や綏徳といった隣接する黄土高原地帯では、小麦の生産もままならず、「小米」と呼ばれるアワやコーリャン、トウモロコシ等が主たる農作物、と山西省とほぼ同様の条件にあります。なかでも黄河沿いの佳県は貧困県のひとつで、むき出しになった岩場の急斜面にわずかに残る黄土に作物を植える農民の姿は、この地域の経済の難しさをひしひしと実感させるものでした。

そうした困難な状況のなかで、数年来豊作続きであったこの陝北地区は、今年近年まれにみる干ばつにみまわれ、数か月間ほとんど雨が降らないために、農民は春の植え付けもできずに、乾燥して風に舞い飛ぶ黄土の土を耕しつつひたすら雨を待っていました。そんなとき彼らは「我們是靠天吃飯的、如果天不下雨、我們只好餓孩子(われわれの生活は天に頼っている、もし天が雨を降らせてくれなかったら、子どもを飢えさせるしかない)」と半ばあきらめた表情で言うばかりです。人民公社

時代に、山の中腹にため池をつくり、集中的に降る雨をためようとの努力もおこなわれましたが、そこでためられる水は、灌漑の役に立つにはほどとおい量で、またため池用につくられたく

ば地も夏の集中豪雨でまたたく間に押し流されてしまったということで、今はまた昔と同じ、「天に頼る」生活です。

ところでそんな農民の現在の最も切実な訴えは、幹部の腐敗と社会の不正に向けられていました。少し親しくなると必ずと言っていいほど、地方幹部に対する不満を聞くことになります。そのひとつは、上級の幹部が村にやってきては派手に飲み食いして、村の財政を悪化させていること。しかもその財源は、かつて自分たちが汗水流してつくった「棚田」や「覇田(川の上を埋め立ててつくった畑)」を農民に「売る(実際には有償で貸し出しているのだが、農民は売っていると解釈する)」ことによって得たもので、そうした村政府のやり方にも不正感がつのっているようでした。実際にわれわれの滞在中にも、兵役から帰ったという理由で仕事をあてがわれた郷幹部が、昼から白酒とビールを飲んでマージャンに興じているのを何度も目にしました。ちなみに、われわれの滞在する村で、幹部の飲食費(接待費)は年間6,000元にもおよぶということです。これは、一戸あたりの年間収入が1,000元に満たないことの多いこの村で(それでも、山西省より恵まれています)、大きな負担であることは想像にかたくないでしょう。また、近くの県城では麻薬の売買で昨年多数の幹部が逮捕されるなど、おおよけに問題となっているものだけでも、数をあげればきりがありません。そんななかで、今はぎりぎりのところで我慢をしているが、もう少し深刻化すれば、どうなるかわからない...ともらす農民もありました。

80年代後半に都市で鬱積していたような不満が、90年代にはいって、農村の基層部へと広がりはじめた感のある今回の滞在でした。



農作業の手を休め、よもやま話に花が咲く



## 三山村小学校気象観測点の計画

百葉箱をおいて地域の気象の観測をおこなう霊丘県三山村小学校から、計画書がとどきました。

### 1. 気象観測点の組織と機構

私たちの三山小学校では、気象観測をしっかり正確におこなうために、10人のリーダーを選びました。校長先生が点長を決めました。リーダーは次の人たちです。

気象観測点長：李艶偉

副点長：白玉春、杜鳳玉、王玉

観測組長：岳志軍（5年乙班）

副組長：岳吉（6年）

記録組長：劉海紅（5年甲班）

副組長：王艶輝（5年乙班）

統計組長：王瑞清（4年）

副組長：杜貞（4年）

### 2. 気象観測点の場所

三山小学校の気象観測点は、学校の敷地内にあり、約2660平方mです。広さは十分で、日あたりと通気性は良好です。校内にあるので、機材の保護や観測にはとても便利です。

### 3. 気象観測点の活動情況

三山小学校の気象観測点では、何人かの生徒にデータを管理・記録させます。各組の間でよく連絡をとり、情報を伝えます。そのほか、いくつかの気象観測小班をつくり、定期あるいは不定期に気象観測をおこないます。この

観測をとおして、生徒たちは気象観測機材の使い方を学び、気象に関する知識を学習することができます。

### 4. 気象観測点の地図



※黄土高原の農山村では5年制の小学校が多いのですが、ところどころに6年制の“完全小学校”があります。三山小学校もそうした“完全小学校”で、遠方の子どもの寄宿舎があります。

### 王萍さんからの手紙

春のワーキングツアーで第一班が通訳としてお世話になった看護婦の王萍さんが手紙を送ってくれました。

先日、郵送された会報を受け取りました。本当にありがとうございました。

私がみなさんといっしょに活動したのは10日だけでしたが、私のことを心にかけて、私が日本語を勉強するために会報を郵送してくださって、私はとても嬉しかったです。心から感謝しました。これからまたよろしくお願

ます。

帰国してから、忙しい日々でしょうね。地震で傾斜した家はもう修復しましたか。前回、大同事務所へ打ったファックスで言われたように、毎日たくさんの仕事が高見さんを待っていますね。繁忙なとき、健康にも十分に留意してください。

4月末、私は日本語を学ぶいいところを発見しました。“大同医専”に、毎週3回（6時間）日本語教室があります。先生は、“日中人材交流協会”の人で、退職した教師で、女の先生です。彼女と少しでも多く話し合うために、授業があるときは毎日、私が早めに教室へ行き、先生と話をしたり、わからない問題を先生に教えてもらったり、いろいろな日本のことを聞いたりします。とてもいい勉強になると思います。

なお、昨日、授業が終わったあと、私は“緑の地球ネットワーク”の活動を先生に紹介してあげました。彼女は聞いたあと、この活動に関心をもって、「私も参加したいな」と言いました。私は、もう“黄土高原に緑を！”のリーフレットを先生に1枚あげました。たぶん、7月に日本へ帰ってから、緑の地球ネットワークの一員になるかもしれませんね。

これから、もし何かお役に立つことがありましたら、遠慮なくおっしゃってください。（後略）

## チコロナイ現地研修 第2回二風谷ワーキングツアーのお知らせ

“チプサンケ”はアイヌ民族の伝統行事、舟おろし祭り。全国からたくさんのファンがあつまり、沙流川の流れに丸木舟をうかべてにぎやかに開催されます。そのチプサンケをはさんで、第2回二風谷ワーキングツアーを実施します。

●日程 8月18日（金）～23日（火）

18日：午後2時JR富良野駅前集合、東大セミナーハウス泊

19日：東大演習林見学、二風谷へ移動、平取温泉泊

20日：チプサンケ（舟おろし祭）参加、博物館等の見学、キャンプ泊

21～22日：交流、周辺の森の見学、山仕事、畑仕事、木彫り・ししゅう体験など、二風谷荘泊

23日：午前11時二風谷にて解散

（活動内容は天候などにより一部変更するかもしれません）

●費用 集合から解散まで1人5万円

（宿泊、食事、交通費、講習・研修費、保険料等。現地までの交通費は別）

●定員、締め切り 約10人、7月10日（ただし定員にたっしだい締め切ります）

●お申込み・お問合せはGEN事務所、または武田（TEL/FAX. 0727-63-4171）まで。

## 第4回チコロナイ学習会

★北海道ウタリ協会制作のビデオを見ながらいっしょに考えましょう。  
『共生への道』～日本の先住民・アイヌ～  
『アイヌ文化に学ぶ』

●日時：7月8日（土）16時～18時

●場所：GEN事務所

JR環状線・地下鉄中央線「弁天町」

●参加費：100円＋カンパ

●連絡先：円満堂修治

TEL/FAX. 078-592-8466（夜9時以降）

# 山西省の自然

石原 忠一  
(92年緑化協力団団長)

## ( 3 0 ) 風 < 1 >

気象庁の通報につかわれている風力は英国海軍のF・ビューフォート(1774-1857)提督が発案した実用的な観測記録方法で1964年WMO(世界気象機構)に採用されています。風力4(5.5~8m/秒)になると砂ぼこりがたつとされます。

10年あまり中国にまねかれて、野外考古学の扉をひらいたスウェーデンの、J・アンダーソン(1874~1960)はその著書『黄土地帯-Children of the Yellow Earth-1933』に“黄土地帯では、どこでも、嵐のたびに美しい砂塵が、地上にも河流にも、空中にさえも充満する。黄土とは華北を支配しているこの美しい砂塵

土に与えられた名称だ。ヨーロッパの学者はラインランドにある同様な土壌にならって、これをレース(Loess)とよんでいる。”と表現しています。



西方から風に飛ばされてきた細かい砂が厚く積もって黄土層を形成した

50~60mの厚さに堆積したこの黄土は氷河のはたらきか、湖底に堆積したか、風成かを論じて、風の作用で現在の位置に溜まった砂塵堆積物と断定したのは、シルクロードの命名者としても知られる、F・リヒトホーフエン(1833-1905)です。

“黄土層は一枚のカーペットのように溪谷を覆い、山峰はちょうど冬期、雪のカバーの上に頭を突き出している

のと同じような景観を呈している。雪のカバーとの比較はまことに当を得ていて、黄土は乾いた粉雪のような砂塵で、これが風に運ばれて風力の弱まった所とか、地形的に陰になっているような場所に溜まって堆積したのである。”

冬山で地吹雪にまかれた思い出をなつかしみながら、徐町郷でとった黄土のサンプルをさわって、テーブルの上のコショウ粉のようななど山西をしのんでいます。

### 私の本棚

『大きな木に伝わるお話』  
円満堂修治著／近代文藝社／1,000円

春の黄土高原ワーキングツアーに参加した今村さんは、雑誌のなかでアンズの木に語りかけました。「時間をたっぷり吸って 次の世代に私たちのことを語っておくれ」と。たしかに、私たちよりゆっくりと生きる木は、時間を吸って成長するのかもしれませんが。そして、時間だけでなく、まわりで起きたさまざまなことをその身内にとりこんでいるのです。

『大きな木に伝わるお話』は、そんな古木が語ってくれたかのようなお話です。離ればなれになった母子の、子が母を慕うところ、母が子を慈しむところ。子どものそばには母の木が、母親のそばには子どもの木があり、母子の強い思いを感じとった木々が、自分たちの思いも重ねて、空間をこえてそれを伝えるのです。

話中話の形式をとったこの物語で、本筋の母と子(と木々)の昔話を現代の少年に語るの、少年の祖父です。「このお話って、完全な創作ですか？」失礼とも思える質問を、著者の円満堂さんにしてみました。不思議そうに、「はい、そうです」と答えてくださいました。「おじいちゃんに聞いたんです」という答えを期待した私が単純すぎました。でも、やっぱりなにか円満堂さん自身とこの物語に重なるところがあるはず。...ありました！ 母と子の情愛の昔話を孫に語り聞かせるおじいさん、その物語を著した円満堂さんは2児の父ではありませんか。

ひとつの世代から次の世代へと受け継がれていくなにか。人間のそんな営みをよこめによりゆったりとしたサイクルでやはり同じことを繰り返す木々。全く違う生命体に見えるけど、同じ地球に生きる命なんだ。なんていうことを思い出させてくれる、これはそんな

物語です。  
※大型書店で  
ご注文ください。



### やまももをどうぞ

高知の田中さんから、季節の味覚、“やまもも”出荷のお知らせがとどきました。そのまま食べても、果実酒にしてもおいしい“やまもも”、今年は豊作だそうです。この機会にどうぞ。

●楊梅(やまもも・天然)

1kg 2,500円(送料別・関西620円)

※出荷は6月20日~7月5日。ご注文の際は、ひとこと「GENの紹介」とそえてお申込みください。

〒781-74 高知県安芸郡東洋町甲浦  
田中隆一さんまで

TEL/FAX. 08872-9-2500

## 『チコロナイ』ひろがる輪

## 協力者からのメッセージ

アイヌプリへの共感  
五十嵐 祥智

家族で山菜採りに行くことがある。山を見て帰ってくると、この辺に入る人は何でもかんでも手あたり次第持っていくのだ、杉山ばかりでいいはずがないと文句を言い、うちのほうでこんなことをしたら嫌われる、とか、こっぴどくみたいが好き勝手なことをしていたらみんな死にしまう、とちょっと出身地の自慢をするのは私の父である。この間、山ぶどうをしぼったあとで、もともと山のものだから種は山に撒いて戻ってくるか、と言ったときには、私が多少アイヌプリなど読んで知ったときでもあり、この父はチャルパを知っているのではとぞっとしたくらいだ。山育ちでもない私だが、どうやらこの父から何かを受けているらしい。

父の実家は東北の山のなかで、米を食べて畑も作ってはいるが、ほんのちょっと前まで、山菜や川の魚など結構な部分を山や川からもらっていたようだ。父は、その父から山のことを教わり、明治ひとけた生まれの祖母からは、字も読めないのによく覚えていたなど思うほどいろいろな昔話を聞いているらしい。アイヌに関心のある人ならきっと、何かの本で読んだようなフレーズだと思うだろう。学校で歴史を習うと、なんだか日本の端から端まで画一的に見えてくるが、米を満腹に食べていた人は少ないし、本が刷られるようになった江戸時代にさえ、字を知らないのは珍しいことではなかった。あなたのまわり、ちょっと3~4代前の先祖をふり返ってみてください。同じような話は珍しくないはずですよ。

私は日本の伝統的音楽に関わっているが、「音楽は世界共通」などという

言葉には賛成できない。むしろ言葉が通じぬほどに音楽も通じないと感じる。文化の異なる民族が理解しあうのはそれほど大変なことだ。ただ、アイヌプリは、日本人にはっきり思い出せない何かを刺激してくる。何となく感じている何かか何であるかを思いおこさせる。皆さんがこういう活動に共感もったのも、単なる気まぐれや偶然ではないでしょう。確かに山、森に対する知識はゼロに等しい。でも何かわかる気がする。それは、遠くもない3~4代前の先祖が、ちゃんと自然と生活していたという文化、それが空気のように、親、そのまた親から伝わっているからではないでしょうか。自分の故郷まで消耗品のように使って何とも思わない、そんな化け物のような考え方は、たかだか19世紀からの住人なのだ。そんな住人に踏みつづされたいではない。

アイヌプリを知ろうとするならまず、自分が優れた自然観察者でなければ。こんな意見を聞いた。確かに今までは読んだり聞いたり、机の上での共感であった。今度は是非チコロナイでこの感動を味わえるようになりたい。

素晴らしいことば「アイヌ」  
佐藤 奈美子

片山龍峯著『日本語とアイヌ語』という本の中にこんな言葉がありました。

著者がある古老に「アイヌ」という言葉はどういう意味なのですか、と尋ねたところ「たとえば家のなかに私がいるとします。すると外をいろいろなものが通る。その足音を聞いて、あ、いまチロンヌブ（キタキツネ）が通ったな。あ、今度はユク（エゾシカ）が走ったな。あ、今度はアイヌが通るな」というようにとらえるのだと説明して

くださった。……アイヌとは「人間」を意味するのだが、他の動物たちとまったく同じような地平に置かれていることがわかった、と。

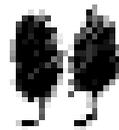
萱野茂さんは小さいとき、お母さんに「アイヌネノアンアイヌ エネツプネナ（人間らしい人間になるんだよ）」とくり返し言われたそうです。アイヌのコタンでアイヌという言葉はとても大切な言葉で、おこないのいいアイヌだけをアイヌと呼び、ウェンペ（悪い者）という呼び方もあったとか（「たぐさんのふしぎ」第55号、福音館）。「アイヌ」。なんて素晴らしい言葉ではありませんか！ そう思っていました。

昨夏、二風谷ワーキングツアアから戻ってきて、本を読みました。

『アイヌわが人生』『二風谷に生きて』『アイヌの碑』『サルウングル物語』『イフンケ』『アイヌ民族』『先住民族アイヌの現在』『静かな大地』『アイヌの世界に生きる』『風めぐみ』『南北の塔』『知里真志帆の生涯』『釧路湿原を歩く』『アイヌ群像』『アイヌ文化成立史』等々。

昔の人、今の人、たぐさんのアイヌの人びとに出会いました。そして理不尽な侵略の歴史、差別を知りました。あの「アイヌ」という言葉にどんな思いがこめられるようになったのかも知りました。

「なぜそんな遠いところの森に木を植えるの？」と、まわりの人はいぶかしく思います。いま、私には「そこがアイヌモシリだから」ということがはっきりとわかってきました。「チコロナイ学習会」もはじまりました。ゼロからの出発の私はアイヌ民族のこと、森のこと、何でもたくさん学んでいきたいと思っています。



公開講演会

中国黄土高原地方の  
環境緑化と村おこし

自然と親しむ会、講演会、報告会などの国内のイベントはどうしても阪神間中心になり、関東の方に参加していただく機会がなかったのですが、今回(財)林業科学技術振興所に公開講演会をするからと声をかけていただきました。講師・パネリストとして高見邦雄事務局長が参加します。平日ですが、お時間のある方は、ぜひのぞいてみてください。

- 日時：7月11日(火)13時30分～17時
- 場所：麻布グリーン会館(営団地下鉄日比谷線神谷町下車出口2から歩行者専用道で5分)
- 入場無料
- 講演内容
  1. 『黄土溝谷区域の流域保全と森林造成』講師・遠藤泰造氏
  2. 『日中協力による砂漠緑化モデル林の造成』講師・江藤素彦氏
  3. 『黄土高原の農村生活と植林』講師・高見邦雄氏
- パネルディスカッション  
『黄土高原地方の地域振興への提言』座長・難波宣士氏  
パネリスト・講師3氏
- 主催：(財)林業科学技術振興所／(社)海外林業コンサルタンツ協会／緑の地球ネットワーク
- 後援：林野庁／国際協力事業団／環境事業団

心に染み入る  
アジアの歌祭り

- 日時：6月24日(土)  
開場：17時30分  
開演：18時
- 場所：藤井寺市立市民総合会館小ホール
- 出演：
  - トゥヌマーヌ楽団ー沖縄民謡ー
  - 片山旭星ー筑前琵琶ー
  - ワウヘミカンキーfolkローレー
  - 竹春座ー河内国分 郷土藝能ー
  - 王 ー胡弓ー
  - チャンゴナベーズーサルムノリー
- 入場無料
- ★屋台もあります
- 主催：この指とまれ!
- 後援：暮らしを考える会
- 連絡先：塩崎さん (TEL. 0721-98-1479 夜間7時～10時)



アジアの子どもたちと  
戦争展

ー教科書・遊び・世相ー

- 開催期間：6月17日～7月2日(休館日 月曜日・6月30日)
- 開館時間：9時30分～17時(入館は16時30分まで)
- 場所：ピースおおさか(大阪国際平和センター) 特別展示室 TEL. 06-947-7208
- 主催：『敗戦50年』企画実行委員会  
連絡先：中北法律事務所  
TEL. 06-364-0123 FAX. 06-364-5247
- 後援：(財)大阪国際平和センター／(財)アジア・太平洋人権情報センター
- 展示内容
  - アジアと日本の教科書比較
  - 戦争中の教科書・遊び道具・絵本など
  - 植民地での教育の実態・中国の子どもたちへの抗日教育
  - 特設コーナー「模型で綴る戦争への道」
- 入場料：
  - 大人 入館料・図録あわせて550円
  - 高校生 入館料・図録あわせて450円
  - 小・中学生は入館料・図録とも無料
- 特別企画
  - アジアと日本の子どもの集い
- 日時：6月24日(土) 14時～16時30分
- 場所：ピースおおさか講堂
- 資料代：500円(小・中学生は無料)
  - おはなし『子どもの本から「戦争とアジア」が見える』きどのりこさん(児童文学者)
  - スライド紙芝居「タチソ作戦・高槻地下軍事工場」(中学校生徒作品)
  - 太鼓演奏 大和太鼓集団「夢幻」
  - 朝鮮のチャング演奏、舞踏(高槻むくげの会)



編集後記

6月12日に阪急電車が全線開通して、私の通勤の足はめでたく震災前の状態にもどりました。

久しぶりに“大阪梅田行き”ホームのいつもの場所に立って足元の夙川を見おろすと、震災前にのんびり川面を泳いでいた鴨は姿を消し、しきりにツバメが飛び交っていました。川面すれすれでひらりと鮮やかに身をひるがえすさまを見ながら、「あんな小さなからだで海を渡るんだもんなあ」と感じたりして。

電車から見る西宮北口までの景色は、高架が落ちただけあって周辺の被害も大きく、あちこちで空き地が目立ちます。これからの道のりは長いけれど、サハリンの地震で大きな被害をうけて放棄されることになったと伝え聞くネフチェゴルスクのことを思えば、愛着のある阪神間を復興できるのは不幸中の幸いかも知れません。

今年生まれたツバメたちが、長い旅を経て来年帰ってくるころには、どんな町並みになっていることでしょうね。  
(東川)